

3 議 案

第 1 号議案 議事録署名人選任の件

定款第 30 条第 2 項にもとづき、次の二名を選任する。

1

2

第 2 号議案 令和 4 年度事業実績の件

令和 4 年度（2022 年度）事業報告

1. 全体評価まとめ

令和 4 年度は夏から秋にかけて新型コロナの感染拡大があったものの、区民まつりや地域まつり以外で予定していた事業をほとんど実施することができた。特に新型コロナウイルス感染防止対策の入場チェックを万全に行った上で、3 年ぶりに環境フェアが開催できた。年間を通じたえどがわエコセンター（以下、エコセンターという）事業の実施事業数は 143 件で前年度に比べ、1.6 倍に伸びたが、コロナ前の令和元年度と比べて約 66%の実施率であった。

一方、SDGs の普及により社会貢献を希望する企業、団体等が増加し、フードドライブへの未利用食品の提供や東なぎさクリーン作戦等の参画があり、これまで繋がっていなかった新たなパートナーシップを結ぶことができた。

世界の情勢を振り返ると、「不安」と「前進」の 1 年だったと考える。令和 4 年 2 月 24 日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった。アメリカ、イギリス、EU 等がウクライナを支援するも、ロシア産の天然ガスの供給が停止される等、各国のエネルギー政策に影響を及ぼすとともにウクライナ産の穀物の輸出が妨げられ、世界的な食料不足が発生する等大きな影響が及んでいる。

環境に関する大きな話題としては、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム (IPBES) と IPCC との合同ワークショップ報告書の中で、「気候と生物多様性は相互に関連しており、生物系の保護と持続可能な管理と再生のための対策が気候変動の緩和、適応に相乗効果をもたらすこと、さらに気候、生物多様性と人間社会を一体的なシステムとして扱うことが相乗効果の最大化やトレードオフの最小化に効果的」と重要な指摘がなされている。

COP27（第 27 回気候変動枠組条約締約国会議）はエジプトのシャルム・エル・シェイクで 11 月 6 日～11 月 20 日まで予定より 1 日延長して開催された。温暖化による「損害と被害」が議論され、途上国の中でも特に脆弱国向けに新たな基金の創設が合意された。COP26 では事実上の世界目標となった「1.5 度目標」のための削減目標の強化には至らず、再生可能エネルギーが脱炭

素化とエネルギー危機への同時解決の鍵であることが強調され、この10年間に再生可能エネルギーへの「公正な移行」を促し、2050年までに実質排出ゼロの達成を目指すこととなった。

12月7日～19日にカナダのモントリオールで開催されたCOP15（国連生物多様性条約第15回締約国会議）では、新しい国際目標「昆明-モントリオール目標」が採択された。陸域・海域に加え内水域についても30%の保全を目指し、資金の支援は国際基金「地球環境ファシリティ（GEF）」に新たな仕組みをつくること等23項目が盛り込まれた。2024年にトルコで開催されるCOP16までに各国に目標達成や強化を促すための国家戦略の提出を求め、進み具合を点検していくとした。

日本では2050年にカーボンニュートラル、2030年には温室効果ガス46%の削減、さらには50%の高みに向けた挑戦のため、地球温暖化対策推進法の改正や地域脱炭素ロードマップが策定された。（2021年度）また、生物多様性国家戦略閣議決定では生物多様性を回復に向かわせる「ネイチャーポジティブ」の実現を目指し、「生態系の健全性の回復」等5つの基本戦略を掲げた。さらにGX（グリーン・トランスフォーメーション）実現に向けた基本方針案もまとまった。

東京都の動きとしては、脱炭素化等による社会構造の変容を促すため、5月に「エネルギー等対策本部」を発足させた。また、全国で初めて戸建て住宅も含めた新築建物に太陽光パネルの設置を原則義務付ける東京都条例改正案が都議会で可決された。

東京都港湾局による葛西海浜公園 海の保全・活用懇談会が引き続き開催され、葛西海浜公園に関連する団体による情報共有や生物調査及び底生動物調査の実施、ビジターセンター、東なぎさ栈橋の検討等が話し合われた。

江戸川区では、2030年までの気候変動への適応策と緩和策をまとめた気候変動適応計画が12月に策定された。また、みどりの基本計画改定に向け、改定委員会が始まった。その他にも食品ロス削減推進計画の策定を契機に、関係団体が緊密に連携しながら、主体的に食品ロスの削減に取り組むための食品ロス削減推進会議が開催された。

SDGs 関連企画として、9月25日～12月4日にSDGs Month in EDOGAWAや10月29日にはSDGs FES in EDOGAWAが開催された。

エコセンターでは、久光製薬による「ほっとハート倶楽部支援団体」に選出され、寄付金10万円の授与式が2月22日に行われ参加した。また、さらに信頼性の高いNPOとして第三者評価機関のグッドガバナンス認証が更新された。

企画提案事業においては、山の幸染め会江戸川支部やNPO法人ふるさと東京を考える実行委員会の参画、NPO法人生態教育センターによる新メニューの提案等事業のひろがりを見せた。

また、エコアクション講座では令和3年度コロナ禍の影響で中止した事業が多々あったが、令和4年度は予定していた7講座すべてを実施することができた。バス見学会や観察会を取り入れ楽しみながら学ぶことができるように工夫し、区民から好評を得ることができた。

コロナ禍で中止が続いていた環境フェアであるが、3年ぶりに開催することができ、42団体が44のブースを設け約3,000人の来場者（アンケート回答852人）があった。屋外のみにも規模を縮小しコロナ対策を万全に行った上での開催となった。

エコアクション講座や東なぎさクリーン作戦等の参加者に記念品を配布しているが、従来のエコバッグの裏面に料理に必要な食材の量を表示し、無駄な買い物を防ぐ新たなエコバッグを作成した。大変好評を得ることができた。また、リサイクルレザーを使ったスマホケースを啓発物品に加えバリエーションの工夫を図った。

区の気候変動適応計画の完成時期が12月に延長された。令和4年度に策定予定であった中期計画であるが、内容を参考にする必要があったため、中期計画の策定も中断し令和5年度に策定

することとした。

懸案であった事務局スタッフの欠員については、区からの派遣職員を得て定員を充足しアフターコロナを見据えた実施体制が整った。

全体的に、令和4年度は新しいパートナー等も加わった結果、コロナ禍を脱する次年度に向け活動が活発化し、完全復活に向けたよい助走期間となったと考える。

2. 主要事業別評価

- (1) SDGs Month in EDOGAWA が9月から12月にかけて開催され、エコセンターも東なぎさクリーン作戦や葛西海浜・臨海公園 魅力発見探検ツアー等を通じて、SDGsの普及啓発に貢献することができた。区が10月29日に開催したSDGs FES in EDOGAWAでは、区の環境部清掃課と連携し食品ロス削減用のエコバッグを作成し配布に協力した。
- (2) 3年目を迎えたフードドライブ常設回収は、令和3年度回収量の約2倍（17,810個、4,575kg）の未利用食品を回収した。未利用食品の回収先としてイトーヨーカ堂アリオ葛西店・小岩店や小松川信用金庫、ウィライツ、トヨタモビリティ、江戸川都税事務所、第一生命、ニューコン工業、東京東信用金庫、環境部清掃課等と連携・ネットワークの拡大による効果が表れた（約36%アップ）。また、フードバンク5団体との連携も各団体の協力を得て円滑に実施できた。
- (3) 葛西海浜公園における事業では、東なぎさクリーン作戦においてクボタスピアーズ船橋・東京ベイや青森大学、ライオン、ローソン等と連携し実施することにより、連携の輪を更に深めることができた。また、NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会と共催し、西なぎさビーチクリーンを開催した。参加者が清掃活動で使用するトング等の物品支援を行った。
- (4) 環境教育では、グリーンプラン推進校の対象校が小学校17校、中学校3校の20校と令和3年度から4校増加した。取り組み内容もSDGsに関する学習を始め、みどりのカーテンや葛西海浜公園における学習等多岐にわたった。また出前授業は17件の依頼があり、1,104名の参加があった。また、新たにNPO法人生態教育センターからも講師を依頼できることとなり、プログラムの幅が広がり内容を充実させることができた。
- (5) エコアクション講座はコロナ対策を万全に行い、予定していた7事業の全てを実施することができ、講演会を3回、見学会・観察会を4回実施した。特に第5回エコアクション講座の三宅成也氏を招いた「コーポレートPPA」をテーマとした講演会では、再エネ電力の導入に向けた有意義な話が聞くことができたという感想を多数いただき非常に好評であった。また、これまでコロナ禍により中止してきたが、屋形船を利用しラムサール条約登録湿地を見学する船上観察会は東京都公園協会と共催で開催し、内容を充実させ2倍の参加者となった。
- (6) エコカンパニーえどがわは、新規登録数が8件となり令和3年度を上回ったものの、退会事業所も22件と増加したため登録事業所数が減少した。累計登録件数は300件となり、令和3年度よりも14件減少した。コロナ禍の状況も少しずつ落ち着きつつあるが、依然として企業にとっては厳しい状況が続いていると言える。また、SDGsに取り組む事業所を対象とした融資は非常にハードルが高く、エコカンパニーえどがわに登録する事業所数の増加の鈍化の要因の一つとも考えられる。

3. 次年度へ向けた重点課題・対策

令和5年度は区民まつりや地域まつりを含めたイベントが、コロナ前に戻りすべて実施する方向であるため、これまでできていなかった、もったいない運動のPRを強化していく。

また、エコアクション講座の講師に広く集客が期待できる著名人を招聘し、多くの区民に温暖化対策等の重要性を訴えていく。さらに、気象防災アドバイザーのアドバイスを加味したプログラムを組んでいく。

区の気候変動適応計画を参考に、中断していた中期計画の策定を開始する。気候変動についての対策として、温暖化を抑制するためにその原因となる温室効果ガスの排出を削減する「緩和策」を中心に進めてきたが、効果が表れるには時間がかかってしまう。既に温暖化している影響を含め、現在の温暖化の影響を抑えなくてはならず、そのためにはこれまでの生活・行動様式を変え、防災に対する備えといった被害を回避、軽減するための適応策が重要である。「適応」「緩和」を理解するにはわかりやすい例えとして病気の治療方法である「対症療法」と「原因療法」が挙げられる。課題解決のためには双方を最適に組み合わせコベネフィットにつながる温暖化対策を社会全体で求めていくことが重要である。

令和5年度前期にはムジナモを発見した植物学者牧野富太郎氏を主人公にしたNHK番組が放送されるのを機会に、ムジナモを江戸川区で発見された食虫植物として再評価、PRするとともに、ムジナモの繁殖に取り組む区民の増加を図り、羽生市との連携・交流も強固なものとしていく。令和5年度はイオン環境財団からの助成が採択され、ムジナモ事業に関わる資材等を有意義に活用し取り組みのさらなる充実を図っていく。

様々な事業においてこれまでも多くの企業や団体と連携してきたが、引き続き法政大学高田ゼミや青森大学東京キャンパス、情報科学専門学校等の学校、そしてクボタスピアーズ船橋・東京ベイ等の企業・団体と連携するとともに、新たなパートナー等の発掘に努め一層多様なネットワークの拡大に努めていく。

従前から実施している東なぎさクリーン作戦は、企業のCSRの取り組みの強化により団体参加が増加しており、回数を増やして実施することを検討していく。

年度の後期には、翌年の設立20周年事業に向けた準備を行っていく。

我々を取り巻く情勢において、令和4年度は大きな変換点の年となった。様々な事象に対する反省のもとに、これまで堅持してきた国の在り方や政策が大きく変わろうとしている。資源の少ない日本がこれまで成長できたのは技術立国として貿易を活性化する中で成し遂げられたものである。そのための条件が損なわれてはならない。国民の声や様々な代替案への十分な検討等がなされているのか、将来世代に禍根を残さないのか、しっかり見届けるとともに、十分に持続的な可能性があるのか各自で考え判断することが極めて重要である。「ゴンドラ猫」のようにならないよう、主体性をもってよりよい未来へともに進んでいこう。

『行動変容に向けての言葉』

心が変われば行動が変わる

行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる

人格が変われば運命が変わる

星稜高校元監督 山下智茂

～一人ひとりの行動変容を通して未来をそして運命を変えよう！！～

- (1) 令和5年度からはコロナ禍により中止が続いていた地域まつりが、コロナ禍前と同様なかたちで開催される見込みであるため、エコセンターの認知度アップやもったいない運動のPRが十分に出来るように、より効果的な普及啓発グッズ等を準備し備えていく。
- (2) エコアクション講座は例年7講座計画しているが、その中に気候変動地域連携課と連携したプログラムも盛り込み、温暖化の影響で昨今多発する異常気象について専門知識を有したアドバイザーに解説や対策について講演を依頼することを検討していく。
- (3) フードドライブ常設回収については、3年目を迎え年々回収量が増加している状況である。家庭以外の企業や団体からの未利用食品も受け入れていることから、今後も取扱量の増加が期待される。事務局がメインとなるのではなく、会員団体主導の事業として実施できないか検討していく。
- (4) ラムサール条約湿地登録された葛西海浜公園での活動を活発化させるため、東なぎさクリーン作戦の回数を増やし、CSR活動の一環として企業や団体に参加を募る。東なぎさの豊かな自然が存在する一方で多くのごみが漂着する現状も知ってもらおう。また、引き続き「葛西海浜・臨海公園 魅力発見探検ツアー」についても親子向けに実施し、若い世代にも葛西の豊かな海を知ってもらい、守り引き継いでいく担い手となってもらえるように取り組んでいく。
- (5) 江戸川区気候変動適応計画の完成を受け、中断していた中期計画の策定を行っていく。策定にあたり、気候変動適応計画の内容も踏まえ温暖化対策としてエコセンターで取り組むことのできる「緩和策」「適応策」を盛り込んでいく。また、SDGsの目標には食品ロスや省エネ、リサイクル、自然保護、プラごみの削減等多くの項目がエコセンターの活動に重なるため、こうしたことも踏まえながら策定を行っていく。
- (6) 令和5年度は認定の更新時期を迎えるため、申請手続きの確認や資料の収集をはじめとする準備を行っていく。「認定NPO」を取得していることで、社会的信頼性の向上や寄付等の支援の増加、法人運営・透明性の向上、スタッフのモチベーションアップ等多くのメリットを得ることができる。

4. 事業評価

活動項目		令和3年度	令和4年度	増減
事業	事業数(件)	88	143	55
	参加者数(人)	2,633	4,563	1,930
会員等	会員数(個人・団体)	500	474	△26
	もったいない運動参加者数(※累計人数)	142,885	144,362	1,477
財務	区補助金実績(千円)	36,116	35,110	△1,006
	民間等助成金実績(千円)	1,279	1,000	△279

5. 科目別事業評価

活動項目	事業数(件)	参加者数(人)
(1) 環境教育・環境学習の推進事業	17	1,104
(2) 人材育成事業	7	242
(3) 区民・事業者・行政との交流・連携推進事業	78	2,190
(4) 情報の提供及び支援事業	1	24
(5) 自然環境の保全と活用	40	1,003
計	143	4,563

(1) 環境教育・環境学習の推進事業

○結果・評価

- ①令和4年度のグリーンプラン推進校では、20校(中学校3校、小学校17校)が参加し、10校において出前授業を行った。取り組み内容ではSDGsの目標等を据えた学校が増加した。
- ②令和3年度に引き続き、学校では感染症対策を徹底していることから活動自体が制限され、出前授業の依頼は17件、参加生徒数は1,104人となった。また、全体的に自然環境に関する学習の依頼が多く、教室ではできないフィールドワークの需要が高いことがうかがえる。
- ③新堀小学校では5年生から始まる家庭科の調理実習の最初の授業に「エコクッキング」の出前授業を活用することで、その後の調理実習でもごみの少ない調理や節水を児童が自然と心がけるきっかけを提供することができた。
- ④すくすくスクール放課後環境教育は、新型コロナウイルスの影響により、実施することができなかった。すくすくスクールからの依頼が少ないだけでなく、実施団体の高齢化による担い手不足も課題となっている。

○次年度への課題・対策

- ①コロナ禍でなかなか思うように活動できない中、特にすくすくスクールの放課後環境教育は学校からの依頼が少なく実施には至らなかった。令和5年度は学校の状況を確認しながら、実施できるように周知や準備をしっかりと行っていく。
- ②グリーンプラン推進校については、令和5年度、希望校も増え31校から25校に校数を絞らざるを得なかったが、今後はより多くの学校が継続して取り組んでいけるよう検討していく。

- ③出前授業が区内の小中学校にまだ広く周知されていないため、より多くの学校で活用してもらうため周知・PRを行う。また、SDGsに関する新しいプログラムも開発され、幅広く活用されるようアピールしていく。

(1-1) 学校等環境学習支援

項 目	計 画	実 績
環境学習支援（グリーンプラン推進校）	16校	20校（累計195校）
小中学校出前授業（総合学習等）	20回/1,500人	10校 17回/1,104人
子ども放課後環境教育（すくすくスクール等）	5回/200人	—

(2) 人材育成事業

○結果・評価

- ①令和3年度はコロナ禍の影響により計画していたエコアクション講座全7講座のうち3講座のみ実施したが、令和4年度は感染対策を考慮しつつも全7講座を実施することができた。講演会やバス見学会、自然観察会等様々な分野の講座を行い、約2倍の区民が参加した。
- ②第1回エコアクション講座では、落語家の林家うん平氏を講師に招き、講義と落語の2部構成で開催し、参加者には楽しみながら環境やエコについて考えるきっかけを提供することができた。また、スカーフや風呂敷を活用する話、エコ料理の話等、参加者からは「実践してみようと思う」という声が多数寄せられ、非常に好評であった。
- ③第3回エコアクション講座では、元南極地域観測隊調理隊員の渡貫淳子氏を講師に招き、南極生活の実体験を盛り込みながら食品ロスやエコについてお話ししていただいた。SDGsにもつながる内容のお話をしていただき、非常にわかりやすく生活に取り入れやすい内容であった。
- ④第5回エコアクション講座は、株式会社UPDATE 事業本部本部長の三宅成也氏をお招きして、再生可能エネルギー事業の現状や高騰している電力の卸市場価格を正常化することが電力供給の安定化につながることをわかりやすくご紹介いただいた。参加者からは、「再生可能エネルギーの拡大に向けて何ができるか考えることができた」「とても面白かった」等大変好評であった。
- ⑤第6回エコアクション講座では、2年間中止していた屋形船を使った船上観察会を実施した。東京都公園協会との共催事業として開催し、大型の屋形船を貸し切ってラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園の野鳥を間近に観察したり、公園を海から眺望する等普段経験できない活動が実施できた。参加者からは「ラムサール条約について知ることができた」「もっと野鳥について知りたくなった」等の意見があった。

○次年度への課題・対策

- ①令和5年度のエコアクション講座は、過去に実施し好評であったプログラム等を引き続き実施していく等、区民のニーズを考慮しながら検討していく。
- ②気候変動地域連携課と連携した講座も検討し、さらに講座のテーマに幅を持たせていく。また、区民に気候変動に対する「適応策」と「緩和策」を身近なものとして捉えてもらえるように工夫した講座を検討していく。

(2-1) エコアクション講座

項 目	計 画	実 績
エコアクション講座	7 回/210 人	7 回/242 人

(2-2) 講演会

項 目	計 画	実 績
環境講演会	1 回/200 人	3 回/139 人

(2-3) 地域活動支援

項 目	計 画	実 績
もったいない講座（出張講座）	4 回/150 人	—

(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業

○結果・評価

- ①令和3年度に引き続き、コロナ禍により地域まつりや江戸川区民まつり等、大規模な区主催のイベントは中止となり、もったいない運動や会員団体の活動のPRが困難な状況であったが、3年ぶりに環境フェアを開催することができ、規模を縮小したものの約3,000人の来場者（アンケート回答852人）があった。
- ②フードドライブ常設回収は、3年目を迎え広く認知され回収量も増加している。また、現在は企業等からの提供も一定量受け付けており、円滑に多くの未利用食品をフードバンク5団体に提供することができた。
- ③エコカンパニーえどがわは、コロナ禍が長引いたこともあり、依然として経営状況が好転せず厳しい事業所が多く、退会事業所が22件に上った。ただ新規の登録事業所は8件あり前年度を上回った。しかし、退会事業所が多かったことから登録事業所数はトータルで300件となり、令和3年度から14件減少した。
- ④みどりのカーテンモニター講習会は、新型コロナウイルス感染対策のため定員数を減らして実施し、参加者数は186名となったが、QRコードによる報告の導入により、報告書の提出率が91.2%と格段に向上した。

○次年度への課題・対策

- ①みどりのカーテンモニター講習会において、リピーターの参加者が多いことから、初めての参加者とリピーターを分け、初めての参加者を増やせるよう工夫していく。
- ②フードドライブ常設回収において、家庭以外の未利用食品も受け入れ始めたことにより、回収量の増加が期待される。今後は事務局だけでなく、会員や団体が主体となって継続できないか検討していく。
- ③エコカンパニーえどがわについて、令和4年度よりWEBシステムを導入し運用を開始しているが、紙ベースのレポート提出もまだ残っていることから、ホームページ上でのレポート提出を徹底させ、完全にペーパーレス化が図れるように、登録事業所への周知を強化していく。
- ④令和5年度は地域まつり等のイベントが開催する見込みのため、様々な機会を生かしてエコセンターやもったいない運動、会員団体の活動の認知度アップを図っていく。

(3-1) もったいない運動えどがわの推進

項 目	計 画	実 績
もったいない運動登録者の拡大	147,800 人	144,362 人
環境フェア	5,000 人	852 人
地域イベントへの参加	14 回/8,300 人	中止
もりあげ隊 (ボランティア参加者数)	実施	4 人

(3-2) 省エネ・新エネルギーの推進

項 目	計 画	実 績
家庭の省エネ診断・説明会	2 回/10 人	7 回/20 人
環境に配慮したエコライフ講座、講習会等	5 回/50 人	7 回/57 人
みどりのカーテンの普及啓発	12 回/300 人	講習会等 11 回/137 件 西葛西図書館 15 人 環境フェア 34 人 オンライン写真展 1 回 交流会 中止
キャンドルナイト (スタンド作り)	実施	2 回/31 人

(3-3) 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進

項 目	計 画	実 績
マイバッグキャンペーン	春・秋 2 回	春・秋 2 回
フードドライブ常設回収	実施	518 件/17,810 個
フードドライブ (地域まつりでの回収)	10 回/80 件	—
3Rに関する講座・講習会等	40 回/700 人	30 回/486 人
エコセンターおもちゃの病院	12 回/420 人	12 回/442 人

(3-4) 事業者の取り組み推進・支援

項 目	計 画	実 績
エコカンパニーえどがわ登録事業者の拡大	320 件	累計 300 件 (登録件数 8 件)
エコカンパニーえどがわ普及啓発講座 (再掲)	200 人	29 人
ece 登録事業者への省エネルギー相談	実施	実施

(3-5) 商店 (街・会) やスーパーのエコ活動支援

項 目	計 画	実 績
商店街主催イベントへの支援	実施	—

(3-6) イベント等への参加

項 目	計 画	実 績
産業ときめきフェア	200 人	100 人
大型商業施設タイアップ事業 (イオン葛西店)	1 回/50 人	—

(3-7) チャレンジ・ザ・ドリーム (中学生職場体験)

項 目	計 画	実 績
チャレンジ・ザ・ドリーム (中学生職場体験)	2 回/8 人	4 回/16 人

(4) 情報の提供及び支援事業

○結果・評価

- ①江戸川区民まつりの中止に伴い、令和3年度に引き続きみどりのカーテンフォトコンテストをホームページ上で実施し、オンラインを通じてみどりのカーテンのPRを行うことができた。
- ②情報紙「エコちゃんねる」の58号ではみどりのカーテンを特集し、効果や育て方のポイント等をわかりやすく紹介した。また、59号では「コーポレートPPA」についてイラストを使いながら解説し、さらにどのようなメリットやデメリットがあるのか紹介した。イラストを入れて紹介したことにより、聞き慣れないワードであるが、身近なこととして捉えることができた。
- ③TOKYO MX テレビの番組に脱炭素社会づくり委員会のメンバーが出演し、みどりのカーテンについて紹介した。また、FM えどがわのラジオ出演や区民ニュースを通じて、エコセンターの活動を幅広く紹介することができた。
- ④エコ・エシカル・SDGsをテーマとした店が出展する事業「やさしいマルシェ」(まいふれ江戸川区 主催)に協力して、ポケットティッシュやステンレスストローをエコ啓発グッズとして提供した。地道なことであるが様々な機会を捉えて、PRをすることによりエコセンターの活動が多くの区民に知ってもらえることに繋がると考える。

○次年度への課題・対策

- ①令和5年度は中断していた新中期計画の策定を再開する。計画期間等骨格の部分については、江戸川区気候変動適応計画等も参考に検討していく。また、2030年为目标年度であるSDGsの中身をより深め、持続可能な社会を築くための中期計画としていく。
- ②認定の更新時期を迎えるため、申請手続きの確認や資料収集をはじめとする準備を行っていく。引き続き信頼性や透明性の高い組織運営を行っていく。
- ③令和6年度に20周年記念を控えているため、講演会や記念誌の準備を進めていく。また、集客に期待できる著名人を選定する等、多くの方に参加してもらえるよう検討していく。

(4-1) 情報の発信と提供

項 目	計 画	実 績
情報紙「エコちゃんねる」の発行	4 回	58、59 号 各 2,000 部
エコセンターパンフレットの活用	実施	実施

項 目	計 画	実 績
ホームページの運営管理	実施	実施
リーフレットの活用 (葛西海浜公園に行ってみよう！)	実施	実施
多目的ルームの活用	実施	実施

(4-2) 他団体との連携・活動支援

項 目	計 画	実 績
江戸川総合人生大学への講師派遣	実施	2回
東京湾再生官民連携フォーラム等との連携	実施	実施

(4-3) 相談業務事業

項 目	計 画	実 績
会員等からの団体運営や事業等の相談	実施	実施

(4-4) 会員の拡大

項 目	計 画	実 績
会員向けの講演会・交流会の実施	実施	24人
あらゆる機会を捉えたPR	実施	実施

(5) 自然環境の保全と活用

○結果・評価

- ①令和4年度もコロナ禍の様子を見ながら、感染症対策を行い、「葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー」を実施した。東京都公園協会や葛西海浜公園パートナーズ、NPO 法人生態教育センター、葛西さざなみ会、東京都港湾局と連携し、生きものの観察や葛西海浜公園の歴史・生態について解説を行い、参加者に葛西の海を守り引き継ぐことの大切さを伝えることができた。
- ②天候に恵まれ6月と10月に「東なぎさクリーン作戦」を無事に実施することができた。また、10月の「東なぎさクリーン作戦」は、SDGs FES in EDOGAWA の開催日にあわせて実施し、本事業もSDGsの目標に向けて取り組んでいることを参加者に周知できた。
- ③コロナ禍の影響により中止が続いた「荒川プラごみクリーン作戦」を初めて実施することができた。事前に循環型社会づくり委員会のメンバーが中心となり、河川敷のヨシを刈り、当日の清掃活動がスムーズに行えるように準備を行った。現地は足場が悪く、注意が必要だったが、ペットボトルを中心に53袋のごみを収集することができた。
- ④東京都が主催するイベント「踊って・見て・知って楽しむ ラムサール条約登録湿地 葛西海浜公園」において、都政ギャラリーでのパネル展示に参加した。葛西海浜公園で活動する団体等が活動紹介等を行い、エコセンターでは葛西の海に関連する事業を紹介した。魅力を幅広く伝えることでイメージアップにもつながり有意義であった。
- ⑤区からの依頼により、6月7日に新左近川親水公園水辺環境調査を実施。水質は良好で稚魚の群れも見られ生物も豊富にいと推察された。

○次年度への課題・対策

- ①例年多くの参加者が集まる「東なぎさクリーン作戦」では、企業や団体の参加が増加傾向にあるため、実施回数を年2回から年3回に増やし、企業や団体が優先して参加できるように検討していく。
- ②令和5年度はNHKの番組で牧野富太郎氏がドラマの主人公となるため、ムジナモ事業が注目される。それに伴い、江戸川ムジナモ保存会での活動を活発化させるため、イオン環境財団の助成も得て、さらなるサポートの充実や物品の支援を行っていく。
- ③ラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園のPR事業は今後も継続して行っていくが、現状では講師となる人材が高齢化しつつあるため、若い世代の人材を確保していく。また、関連する団体との連携を密にとっていく。

(5-1) 自然復元・再生事業

項 目	計 画	実 績
河川や海岸のクリーン作戦を通じた自然環境の復元	11回/360人	11回/644人
絶滅種や生物多様性に関する啓発（ムジナモ・ビオトープ）	10回/80人	10回/84人
東なぎさ生物調査	実施	1回/14人
新左近川親水公園水辺環境調査	実施	1回/10人

(5-2) 自然体験・自然観察会

項 目	計 画	実 績
自然体験や自然観察会等の実施	10回/200人	16回/228人
一之江境川親水公園自然観察会	90人	中止

(5-3) ラムサール条約の登録・生物多様性の保全

項 目	計 画	実 績
ラムサール条約登録湿地（葛西海浜公園）のワイズユース及びPR	実施	実施
関係機関・関係団体・地域との連携	実施	実施
ラムサール条約登録湿地を船から見学する船上観察会（再掲）	50人	51人
葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー	実施	23人